

2016年2月期 第1四半期

決算説明会資料

2015年7月8日

株式会社メディアドゥ
東証マザーズ 3678
<http://mediado.jp/>



1 ビジネスモデル / ミッション

2 第1四半期 ハイライト

3 第1四半期 レビュー

4 電子書籍事業の進捗状況

5 今後の成長戦略



1 ビジネスモデル / ミッション

2 第1四半期 ハイライト

3 第1四半期 レビュー

4 電子書籍事業の進捗状況

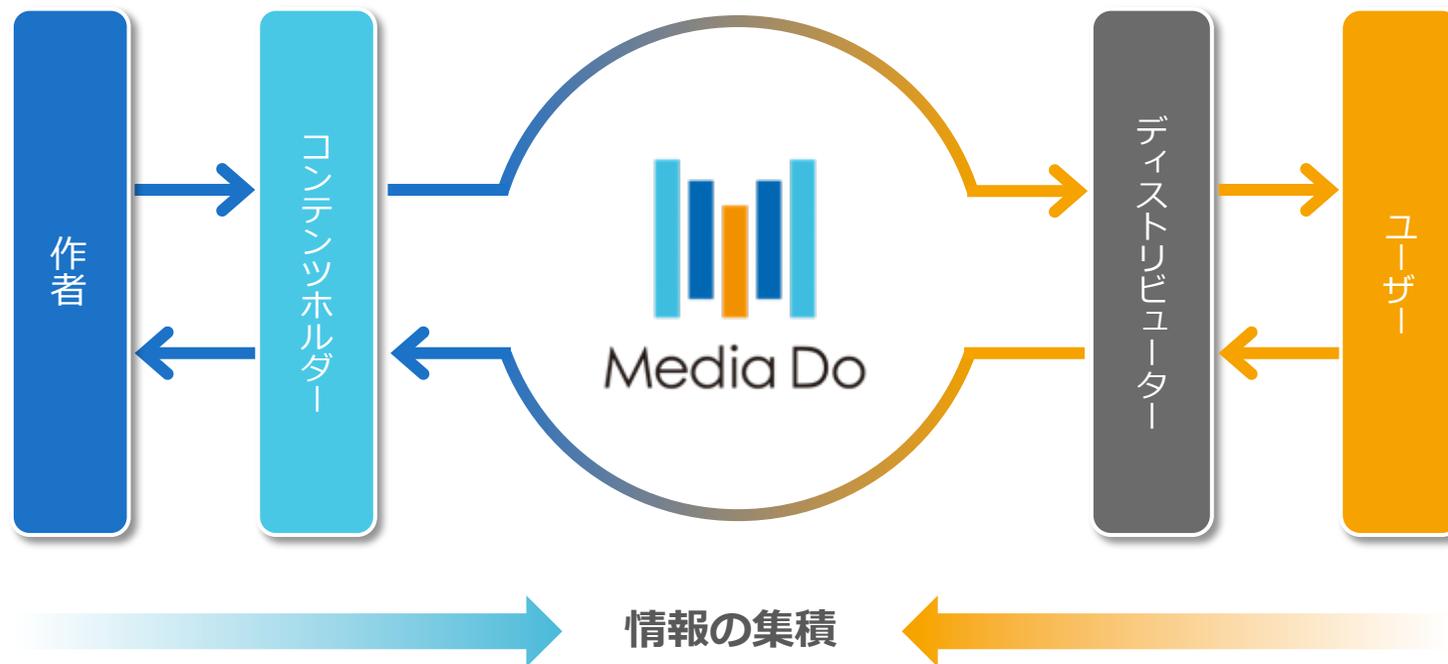
5 今後の成長戦略



事業モデル

当社の事業モデルは、システムを活用した「著作物のデジタル流通事業」です。電子書籍を中心として、音楽、映像、ゲーム等の配信事業を推進。

著作物のデジタル流通事業



ミッション

ひとつでも多くのコンテンツを、
ひとりでも多くの人に届けること。

私たちメディアドゥは、著作物を公正利用のもと、私たちの力で出来る限り広く頒布し著作者に収益を還元するという

“著作物の健全なる創造サイクルの実現”

を事業理念と掲げ、この日本における文化の発展、及び豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。



著作権法 第一章 総則 第一節 通則 第一条 この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的とする。

1 ビジネスモデル / ミッション

2 第1四半期 ハイライト

3 第1四半期 レビュー

4 電子書籍事業の進捗状況

5 今後の成長戦略



第1四半期のハイライト

電子書籍事業が業績拡大、前期比は増収増益。

第1四半期

2015年3月～2015年5月

売上高 : **2,558百万円** (前期比 147.5%)

→ **電子書籍売上** : **2,377百万円** (前期比 156.1% 売上構成比 92.9%)

営業利益 : **122百万円** (前期比 169.5%)

トピックス

3月

メディアドゥ、フジテレビオンデマンドへ電子書籍コンテンツの提供開始

4月

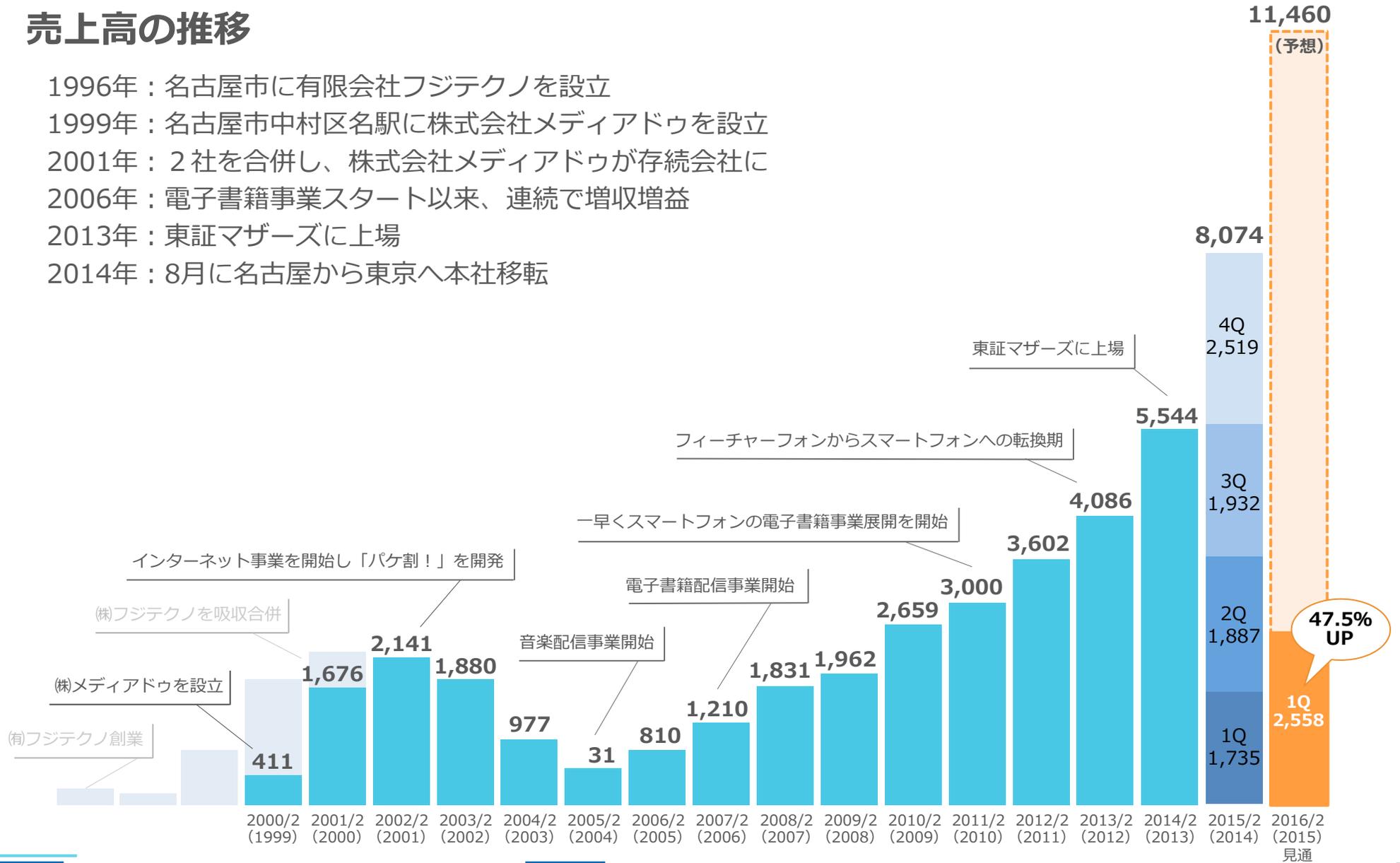
国内での電子図書館サービスをOverDriveとの提携により本格的にスタート

5月

スタテヨコ自在読み機能「ユニバーサルフリック」(特許出願済)を搭載したビューアアプリ「MD Viewer」を提供開始

売上高の推移

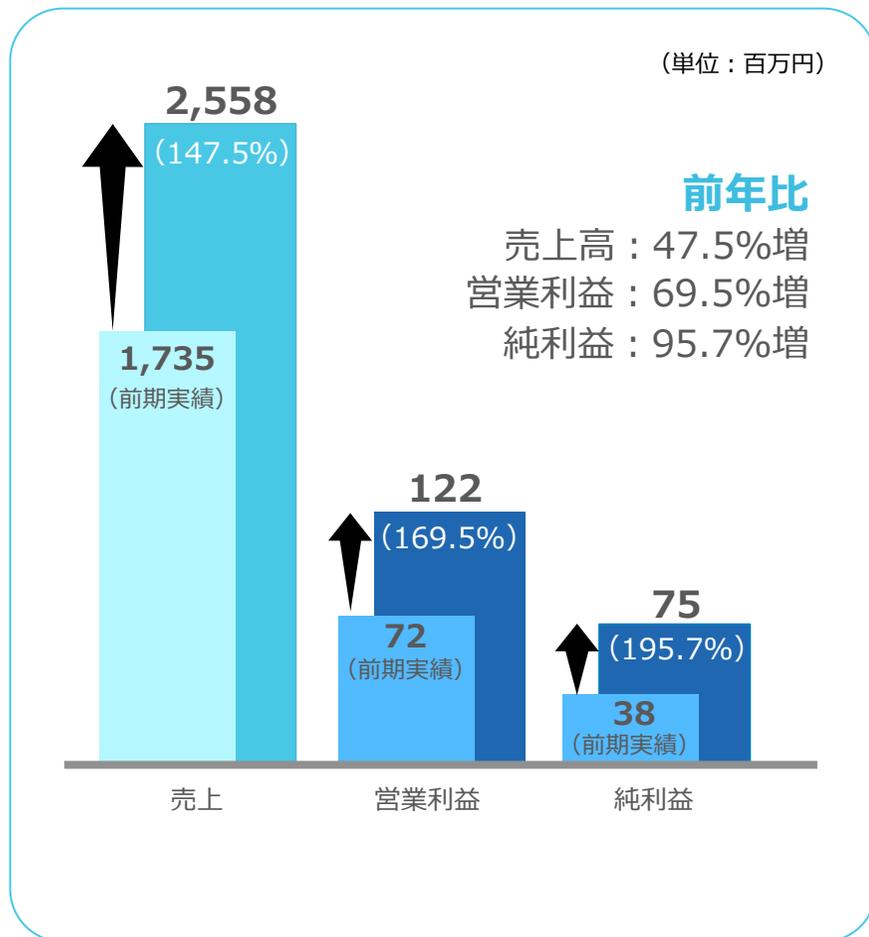
- 1996年：名古屋市に有限会社フジテクノを設立
- 1999年：名古屋市中村区名駅に株式会社メディアドゥを設立
- 2001年：2社を合併し、株式会社メディアドゥが存続会社に
- 2006年：電子書籍事業スタート以来、連続で増収増益
- 2013年：東証マザーズに上場
- 2014年：8月に名古屋から東京へ本社移転



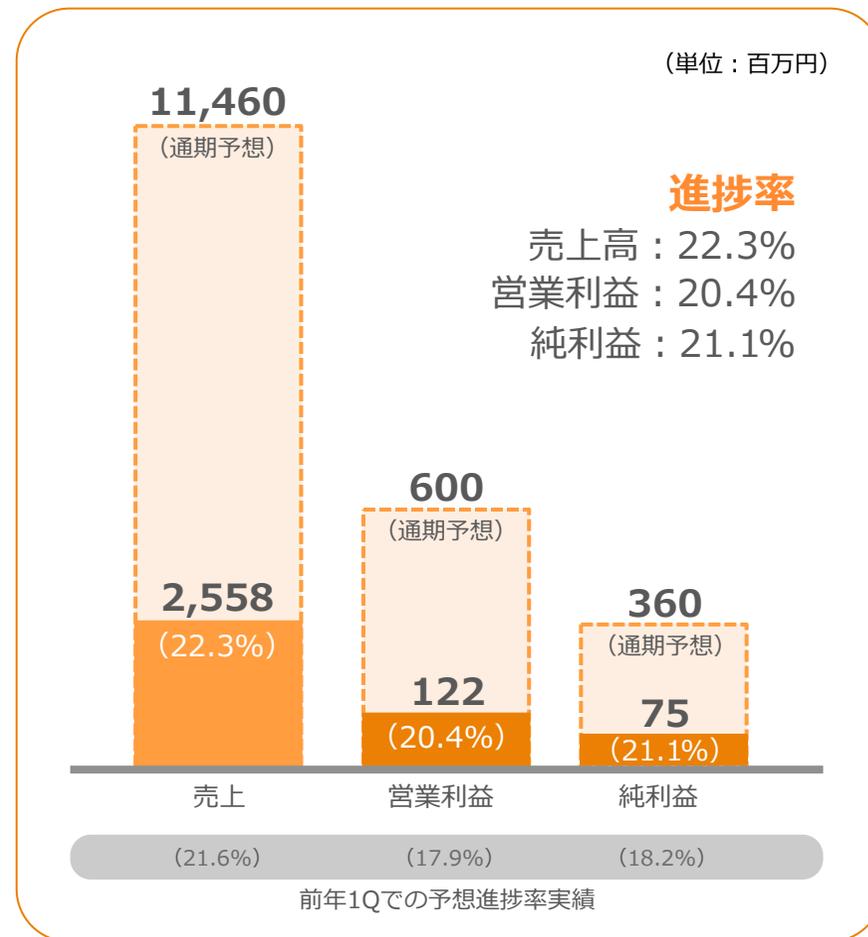
2016年2月期 進捗状況

2016年2月期 1Qは前期比で増収増益 業績予想の進捗率も概ね順調。

前年同四半期比較



通期業績予想比較



1 ビジネスモデル / ミッション

2 第1四半期 ハイライト

3 第1四半期 レビュー

4 電子書籍事業の進捗状況

5 今後の成長戦略



第1四半期実績 (P/L)

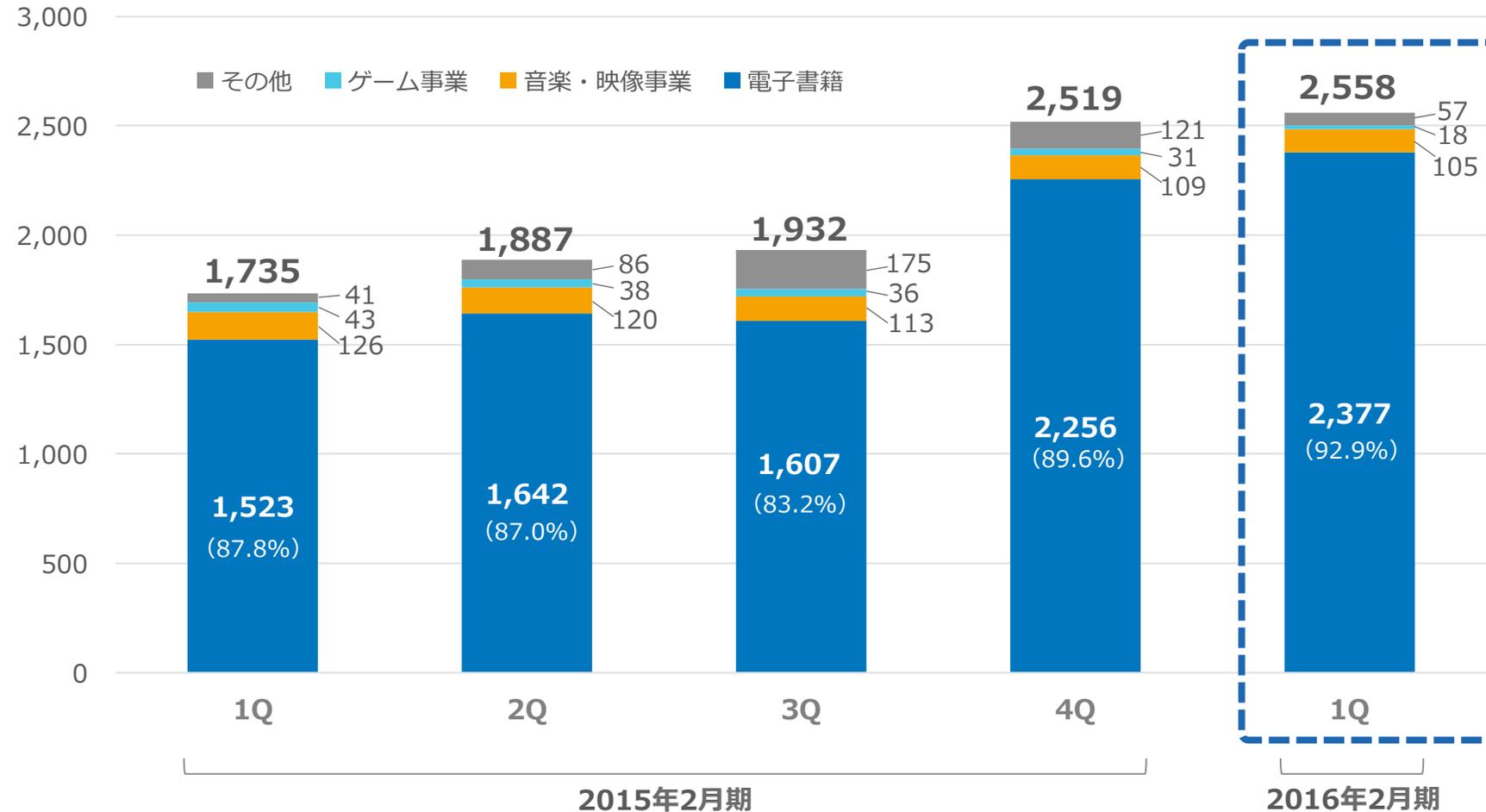
(単位：百万円)	2015年2月期 (第1四半期)		2016年2月期 (第1四半期)			2016年2月期 (通期)	
	実績	構成比 (売上対比)	実績	構成比 (売上対比)	前年同期比	通期予想	進捗率
売上高	1,735	100.0%	2,558	100.0%	147.5%	11,460	22.3%
電子書籍事業	1,523	87.8%	2,377	92.9%	156.1%	—	—
音楽・映像事業	126	7.3%	105	4.1%	83.5%	—	—
ゲーム事業	43	2.5%	18	0.7%	41.1%	—	—
その他	41	2.4%	57	2.2%	138.3%	—	—
営業利益	72	4.2%	122	4.8%	169.5%	600	20.4%
経常利益	72	4.2%	122	4.8%	168.7%	600	20.4%
当期純利益	38	2.2%	75	3.0%	195.7%	360	21.1%

第1四半期実績 (B/S)

(単位：百万円)	2015年2月期 (第1四半期)	2016年2月期 (第1四半期)	前年同期比 (金額ベース)	主たる変動要因、他
流動資産	2,719	4,053	1,334	
現金及び預金	1,394	1,980	586	事業収益の増加、ストックオプション行使
売掛金	1,282	2,031	749	売上増に連動
固定資産	378	436	57	
ソフトウェア	71	104	32	社内制作ソフトの増加
資産合計	3,097	4,489	1,392	
流動負債	1,494	2,540	1,046	
買掛金	1,220	2,296	1,075	売上増に連動
短期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	38	-	▲38	長期借入の解消
固定負債合計	8	9	0	
長期借入金	0	-	-	長期借入の解消
負債合計	1,502	2,549	1,046	
純資産の合計	1,595	1,939	344	利益剰余金の増加、ストックオプション行使等
負債・純資産合計	3,097	4,489	1,392	

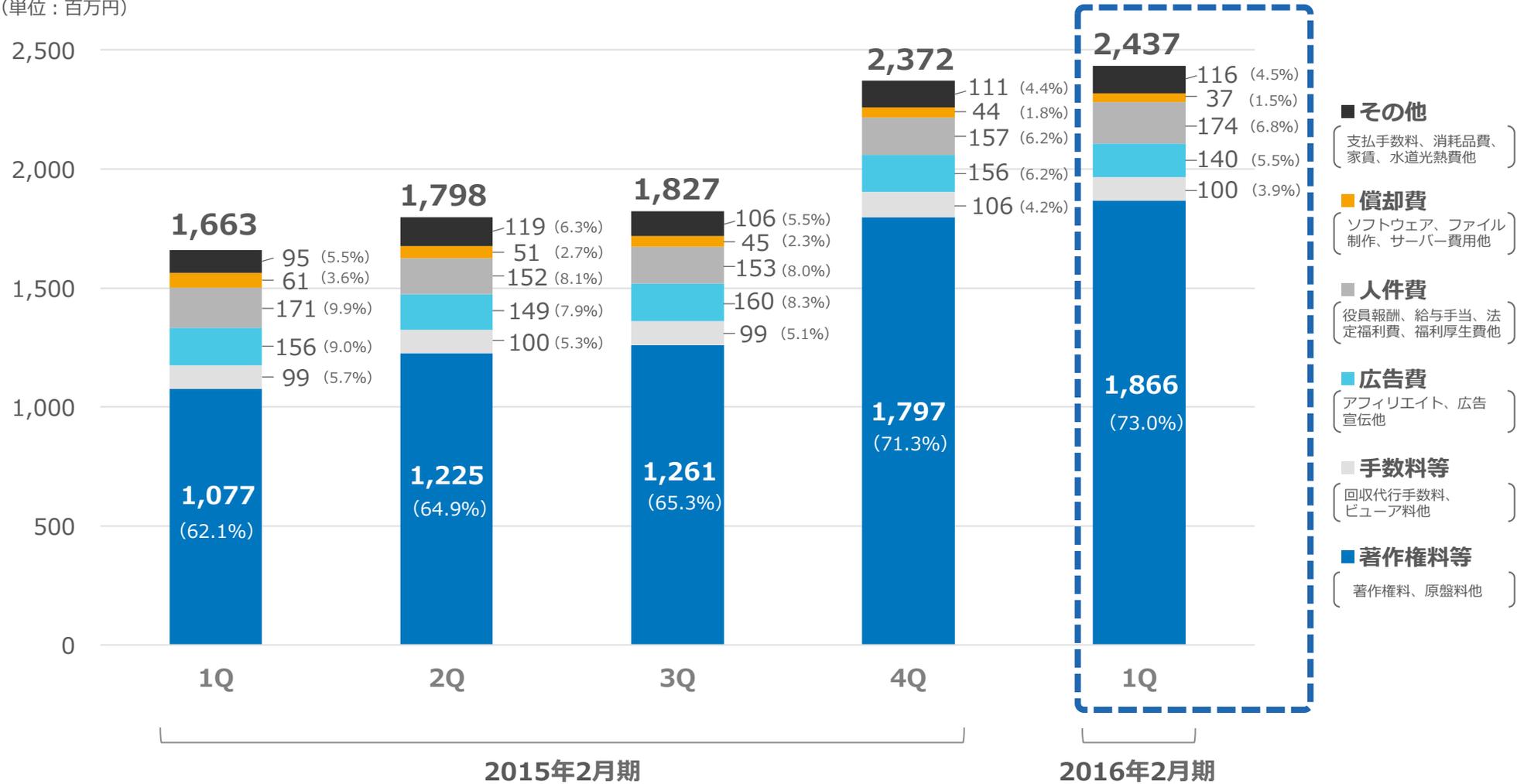
事業別 四半期売上推移

(単位：百万円)

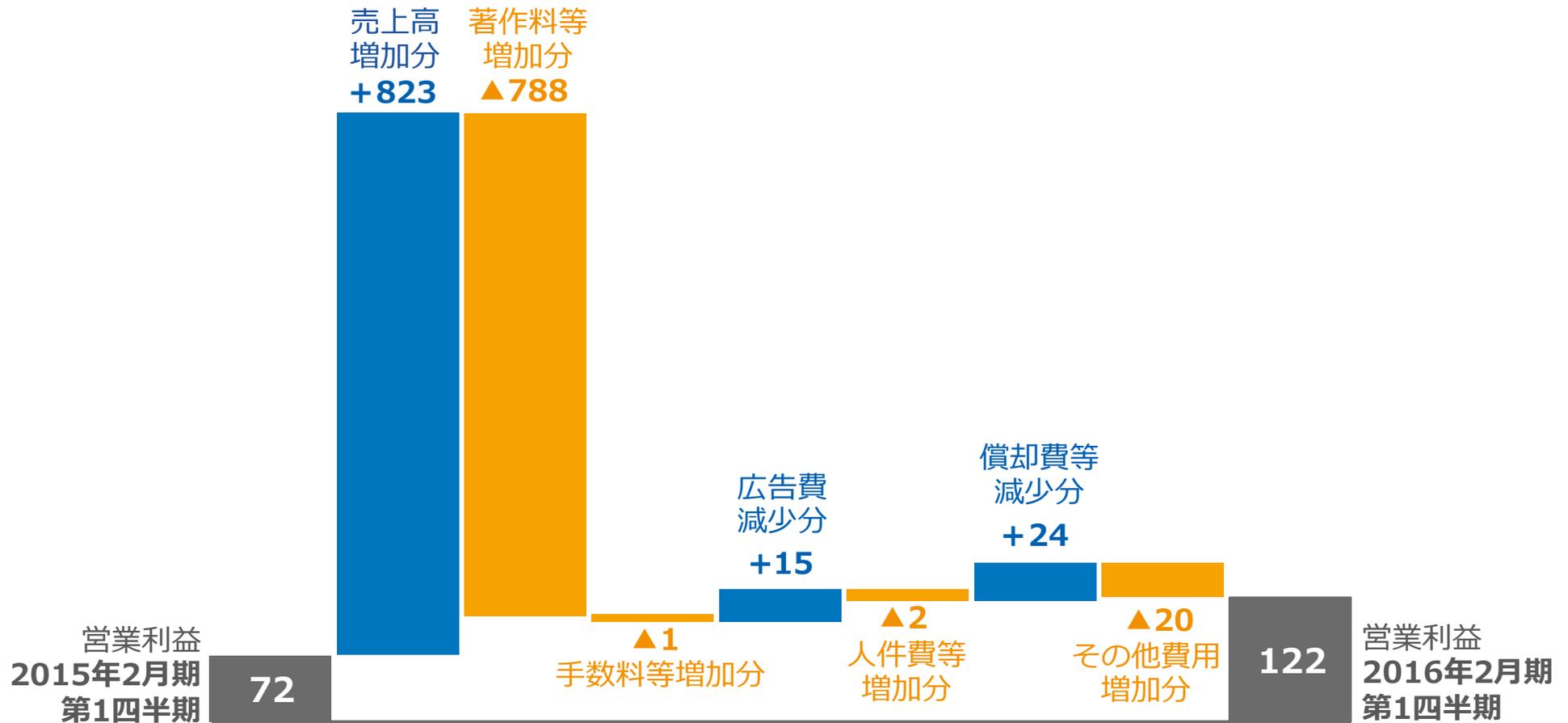


四半期コスト内訳の推移

(単位：百万円)



営業利益の変動要因



(単位：百万円)

2016年2月期 第1四半期詳細

(単位：百万円)	2015年2月期								2016年2月期	
	1Q		2Q		3Q		4Q		1Q	
売上高	1,735		1,887		1,932		2,519		2,558	
電子書籍事業	1,523	87.8%	1,642	87.0%	1,607	83.2%	2,256	89.6%	2,377	92.9%
音楽・映像事業	126	7.3%	120	6.4%	113	5.9%	109	4.3%	105	4.1%
ゲーム事業	43	2.5%	38	2.0%	36	1.9%	31	1.2%	18	0.7%
その他	41	2.4%	86	4.6%	175	9.1%	121	4.8%	57	2.2%
売上原価、販売管理費	1,663		1,798		1,827		2,372		2,437	
著作権等	1,077	62.1%	1,225	64.9%	1,261	65.3%	1,797	71.3%	1,866	73.0%
手数料等	99	5.7%	100	5.3%	99	5.1%	106	4.2%	100	3.9%
広告宣伝費	156	9.0%	149	7.9%	160	8.3%	156	6.2%	140	5.5%
人件費等	171	9.9%	152	8.1%	153	8.0%	157	6.2%	174	6.8%
償却費等	61	3.6%	51	2.7%	45	2.3%	44	1.8%	37	1.5%
その他	95	5.5%	119	6.3%	106	5.5%	111	4.4%	116	4.5%
営業利益	72	4.2%	88	4.7%	105	5.4%	146	5.8%	122	4.8%
経常利益	72	4.2%	88	4.7%	105	5.5%	146	5.8%	122	4.8%
当期純利益	38	2.2%	51	2.7%	61	3.2%	88	3.5%	75	3.0%

※ %は売上対比

1 ビジネスモデル / ミッション

2 第1四半期 ハイライト

3 第1四半期 レビュー

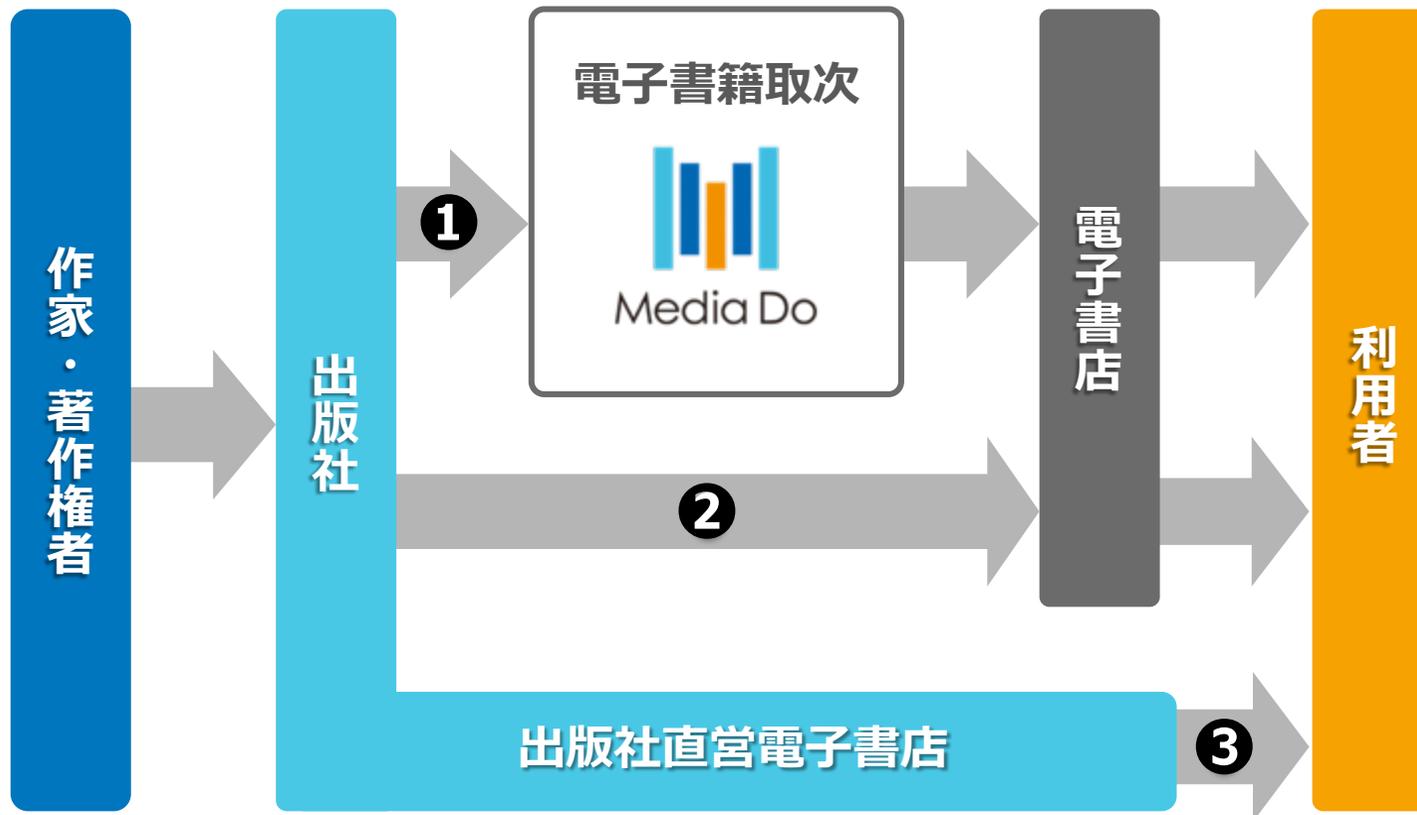
4 電子書籍事業の進捗状況

5 今後の成長戦略



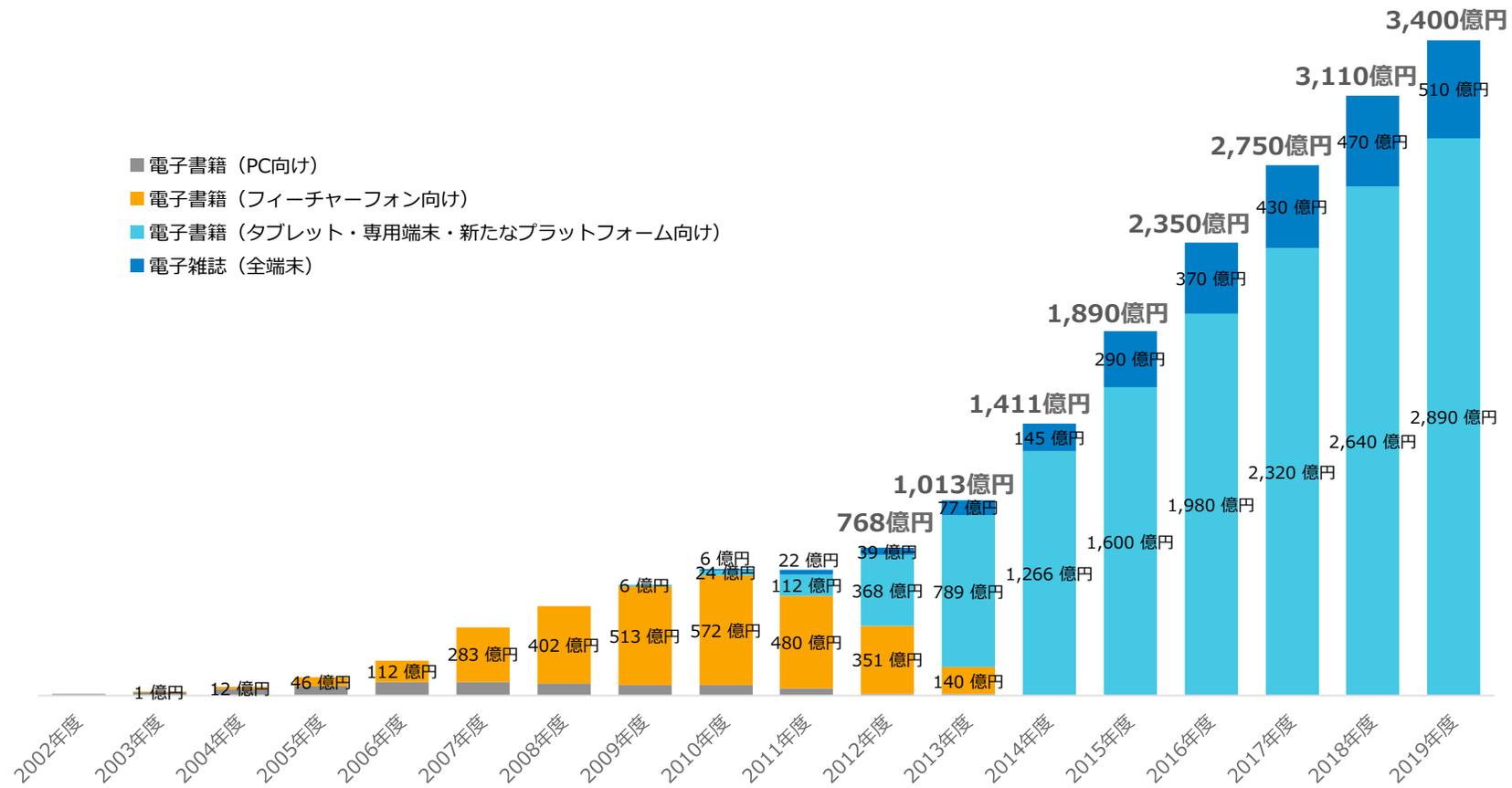
当社の事業ポジション

「電子書籍取次」は、ニーズが高まってきた2006年頃にスタート。市場拡大とともに、出版社の煩雑な業務の担い手として定着。その後、取次の利用が主流となり流通シェアは年々上昇。



電子書籍市場 (アップデート)

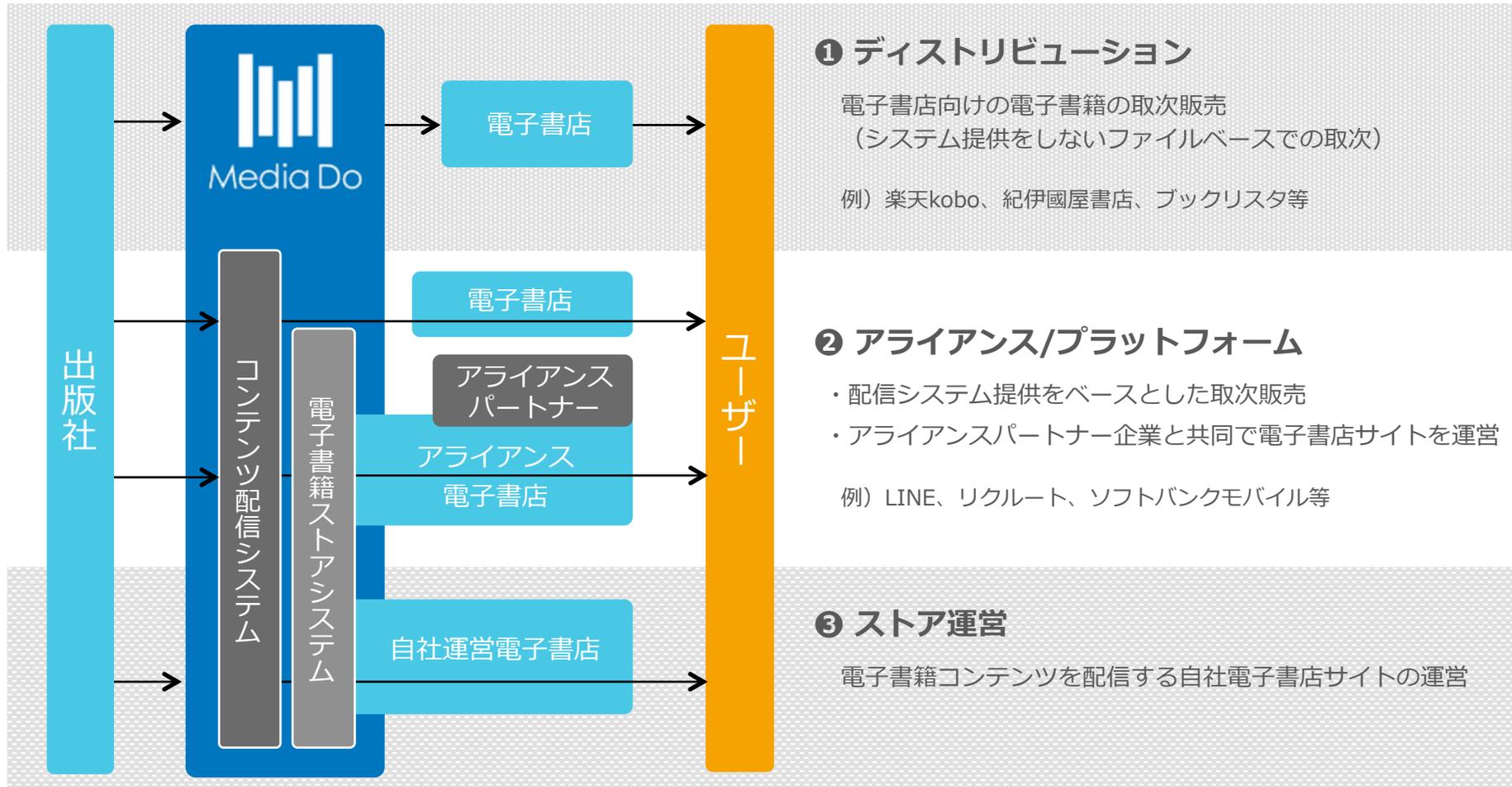
2014年度の電子書籍市場規模は前年比35%増の1,266億円。2019年度の電子書籍と電子雑誌を合わせた市場は3,400億円規模へ成長と予測。



出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2015」

サービス形態

当社の電子書籍事業におけるサービス形態については、以下のようになっている。



サービス形態別売上推移

(単位：百万円)	2015年2月期								2016年2月期	
	1Q		2Q		3Q		4Q		1Q	
電子書籍事業売上	1,523		1,642		1,607		2,256		2,377	
①ディストリビューション	443	29.1%	432	26.3%	386	24.0%	898	39.8%	959	40.4%
②アライアンス/プラットフォーム	723	47.5%	868	52.9%	886	55.2%	1,024	45.4%	1,084	45.6%
③ストア運営	356	23.4%	341	20.8%	334	20.8%	333	14.8%	333	14.0%

※ %は電子書籍事業売上を100とした場合の構成比

① ディストリビューション

- 前年度4Qの取次先増加に伴う売上増加が引き続き1Qでも寄与し売上構成比が上昇

② アライアンス/プラットフォーム

- LINE マンガが続伸。新規のCPの増加も寄与

③ ストア運営

- 前年の4Qの売上水準を維持

電子書籍著作権料率の推移

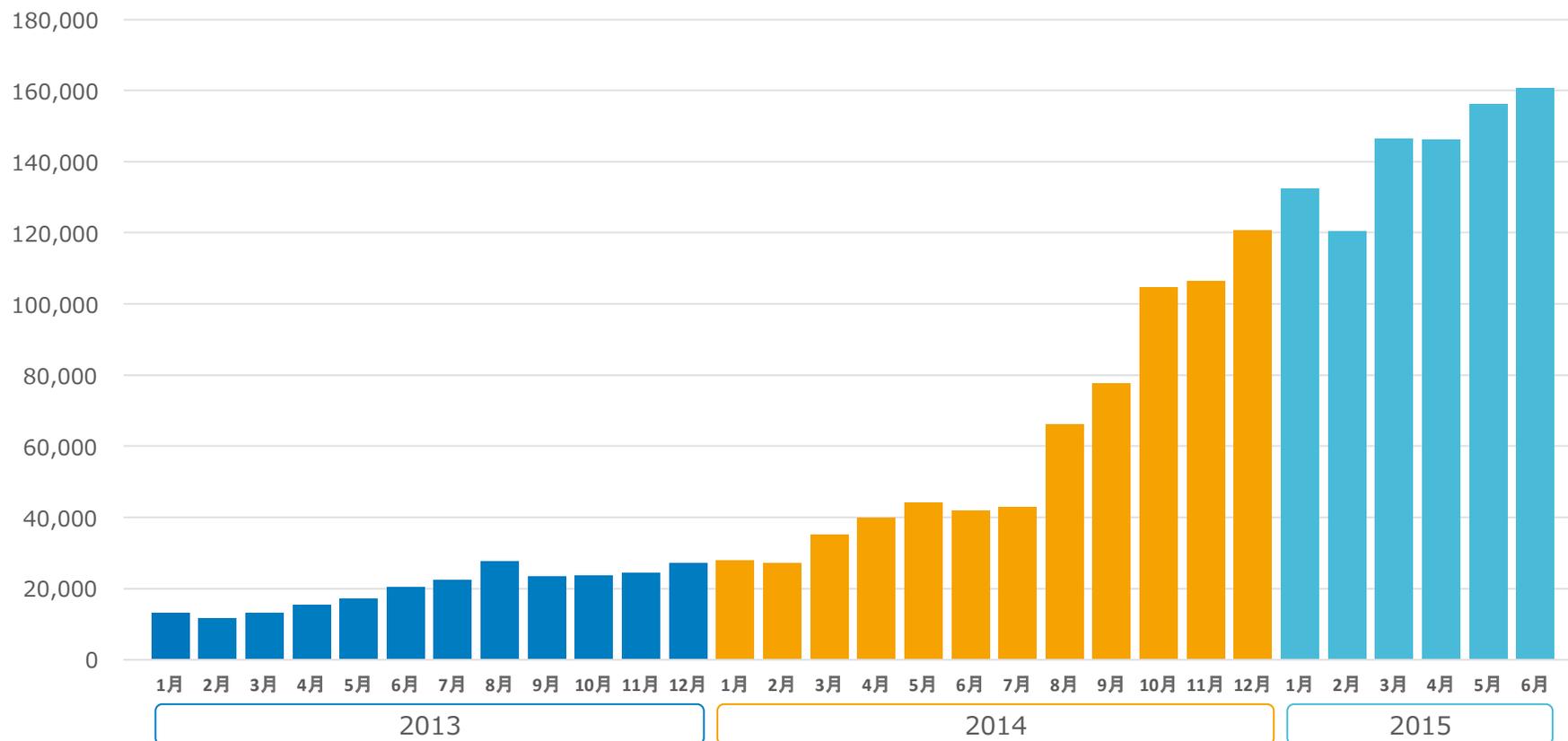
ディストリビューションによる取次先増加に伴い、著作権料も増加。あわせて、売上に占める著作権料率の割合も増加。



ダウンロード（DL）数の推移

「md-dc」における、電子書籍コンテンツのダウンロード数推移（サンプルDLも含む）。

（単位：千DL）



※ 上記数値は当社配信サーバー「md-dc」におけるDL数値で、同一購入コンテンツの複数の端末へのダウンロードや端末から削除後の再ダウンロード数は含みません。

1 ビジネスモデル / ミッション

2 第1四半期 ハイライト

3 第1四半期 レビュー

4 電子書籍事業の進捗状況

5 今後の成長戦略



成長戦略の基本方針

メディアドウの3つの事業拡張の方向性。

①

国内事業拡大

急成長を続ける国内電子
書籍市場でのシェア拡大

②

海外流通展開

日本の秀でたコンテンツの
世界に向けた流通

③

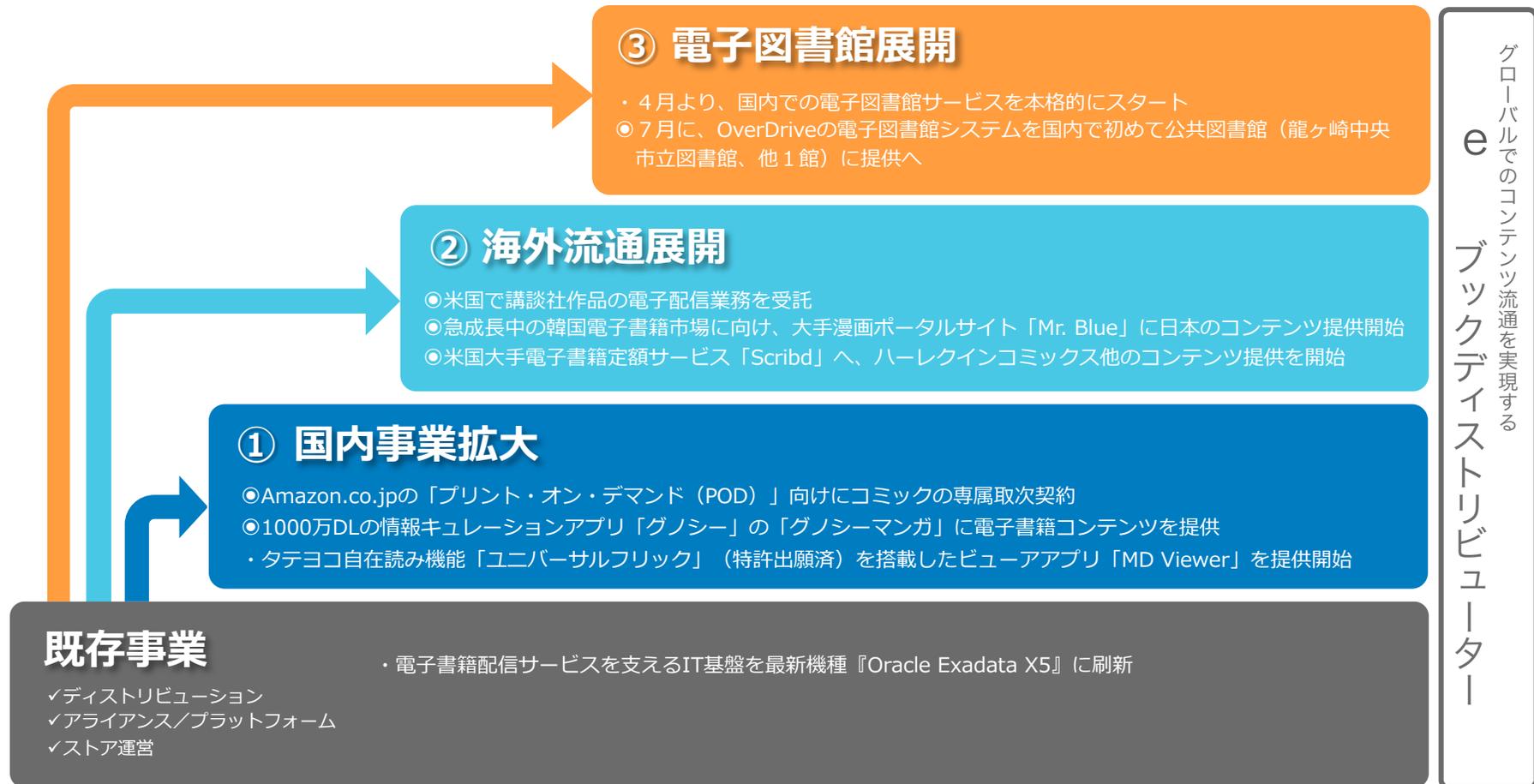
電子図書館展開

貸出による新しい形態での
コンテンツ流通

ひとつでも多くのコンテンツをひとりでも多くの人に届けること

多層化していく事業展開

3方向に展開するコンテンツ流通は、積み上げによって事業基盤を形成へ。



第19回 国際電子出版EXPOレポート (2015/7/1~7/4)

7月1日から4日間で約6万7千名が来場。メディアドゥは最大規模のブースを設置し多数のセミナーを開催。



7/1 水曜日	7/2 木曜日	7/3 金曜日	7/4 土曜日
11:30 ~ 12:15 メディアドゥの全流通を支える Oracle Exadata	11:00 ~ 11:45 専門書の電子化で見た課題と新たなニーズ		
12:30 ~ 13:15 LINEマンガの1巻無料/無料連載による読者への波及	12:00 ~ 12:45 メディアドゥの全流通を支える Oracle Exadata	12:30 ~ 13:15 これからの電子図書館展開	12:00 ~ 12:45 OverDriveの電子図書館ソリューション 海外の成功事例と日本の現状
13:45 ~ 14:15 LINEマンガ 無料連載の実績から見たこと	13:00 ~ 13:45 講師社メディアドゥ 海外における戦略的パートナーシップ	13:30 ~ 14:15 ユーザータッチポイントを定めるためのマンガアプリサービス「マンガBANG!」	13:30 ~ 14:15 メディアドゥの絵本アプリ「Toybook」の展開について
14:30 ~ 15:15 1000万DLのキュレーションメディアが考えるマンガサービスとは?	14:00 ~ 14:45 1日1冊、月30冊読める「D-room」; 大規模マンガ配信サービス「D-room」の展開	14:30 ~ 15:15 メディアドゥの全流通を支える Oracle Exadata	
15:30 ~ 16:15 専門書系配信ソリューションに必要な技術とビジネスの可能性	15:30 ~ 16:15 これからの電子図書館展開	15:30 ~ 16:15 安全安心な配信サービス Amazon PODへの取次開始	15:30 ~ 16:15 取次メディアドゥが開発したビューワアプリ「MDビューワ」
16:30 ~ 17:15 取次メディアドゥが開発したビューワアプリ「MDビューワ」	16:30 ~ 17:15 取次メディアドゥが開発したビューワアプリ「Toybook」の展開について		

世界No.1だからこそ知り得る 世界の電子図書館と電子書籍の潮流

10年以上の経験から得た学びと最新情報公開! 1冊から30,000種へ

OverDrive President and CEO Steve Potash

7月3日(金) 15:30~16:30 有料公開セミナー会場 (EB-4) 要申込

無料公開セミナー「取次」メディアドゥの今後の戦略

「ワンソースで多アロー、アローソリューション」の観点から、電子書籍の多様な展開を詳しく紹介いたします。最新情報や海外の電子コンテンツの市場動向、マンガの最新動向や電子の権利関係など、より一層詳しくご紹介いたします。ユーザーの読書習慣の変化と電子コンテンツの市場動向を踏まえ、OverDriveの最新動向、また、さらなる多様なコンテンツの展開について、このセミナーでは電子書籍の取次「MP」ドゥの今後の戦略、今後の展開について詳しくご紹介いたします。

開催者: 株式会社メディアドゥ 取締役営業部長 渡辺 誠

7月3日(金) 11:00~12:00 西ホール 無料公開セミナー1F 定員制・先着順

eBooks 専門セミナー

世界No.1だからこそ知り得る 世界の電子図書館と電子書籍の潮流

10年以上の経験から得た学びと最新情報公開! 1冊から30,000種へ

7月3日(金) 15:30~16:30 有料公開セミナー会場 (EB-4) 要申込

システムインフラの拡充

メディアドゥの全流通を支える基幹システムのバージョンアップ。



2018年度の
国内電子書籍市場 **3,110**億円※
のコンテンツ流通を支えるシステム (当社調べ)



Speed
高速処理



Availability
可用性



Scalability
拡張性

DR環境の構築

ディザスタリカバリ



※インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2015」

メディアドゥのシステム思想

事業理念に基づきデザインされた独自のコンテンツ配信システム「md-dc」が
国内外のコンテンツ配信や図書館事業展開など当社の根幹を担っていきます

① 国内配信

② 海外配信

③ 電子図書館

基幹システム「md-dc」

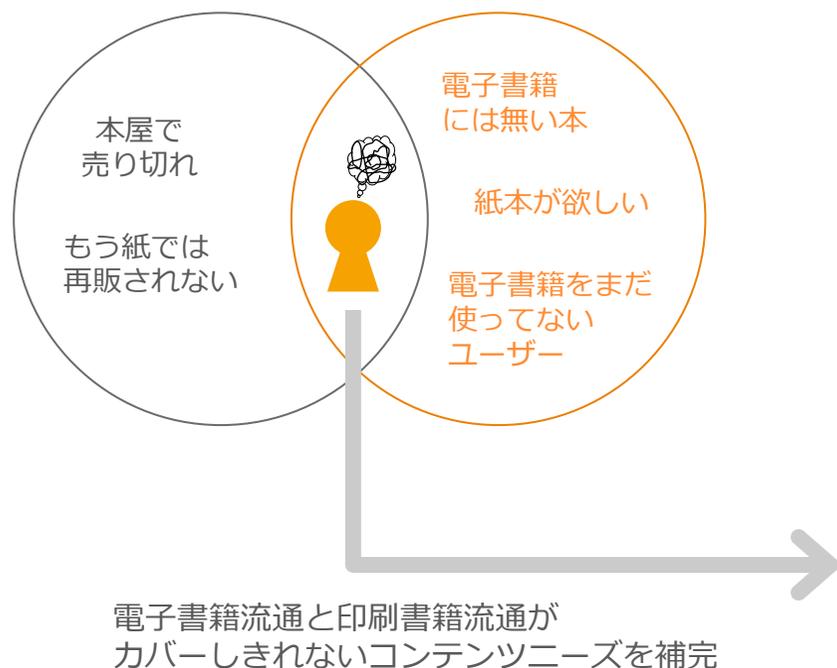
事業理念

ひとつでも多くのコンテンツをひとりでも多くの人に届けること

国内事業拡大

Amazon.co.jpの「プリント・オン・デマンド（POD）」向けにコミックの専属※取次契約を締結。

（※但し、Amazon.co.jpが既に販売しているコンテンツや直契約をしている出版社のコンテンツを除く）



Amazon POD

プリント・オン・デマンド

PODのメリット

出版社のメリット

- ① 完全受注生産（在庫切れ無し）
- ② 版型の自由度が高い
- ③ 差替が容易

利用者（読者→著者）のメリット

- ① 分冊対応が可能
- ② 世界同時発売が可能
- ③ セミナーや授業をPOD販売

PODの流通イメージ



国内事業拡大

情報キュレーションアプリの「グノシー」上で始める「グノシーマンガ」に対し、企画協力とともに電子書籍コンテンツを取次。



Gunosy

累計1000万ダウンロード

「グノシーマンガ」

講談社作品

「金田一少年の事件簿」
原作：天樹征丸・金成陽三郎
漫画：さとうふみや)

「のだめカンタービレ」
著：二ノ宮知子

「エリートヤンキー三郎」
著：阿部秀司

の3作品の連載が開始。



©天樹征丸・金成陽三郎・さとうふみや/講談社 ©二ノ宮知子/講談社 ©阿部秀司/講談社

Entertainment

Life

Shopping

Travel

Recruit

Coupon

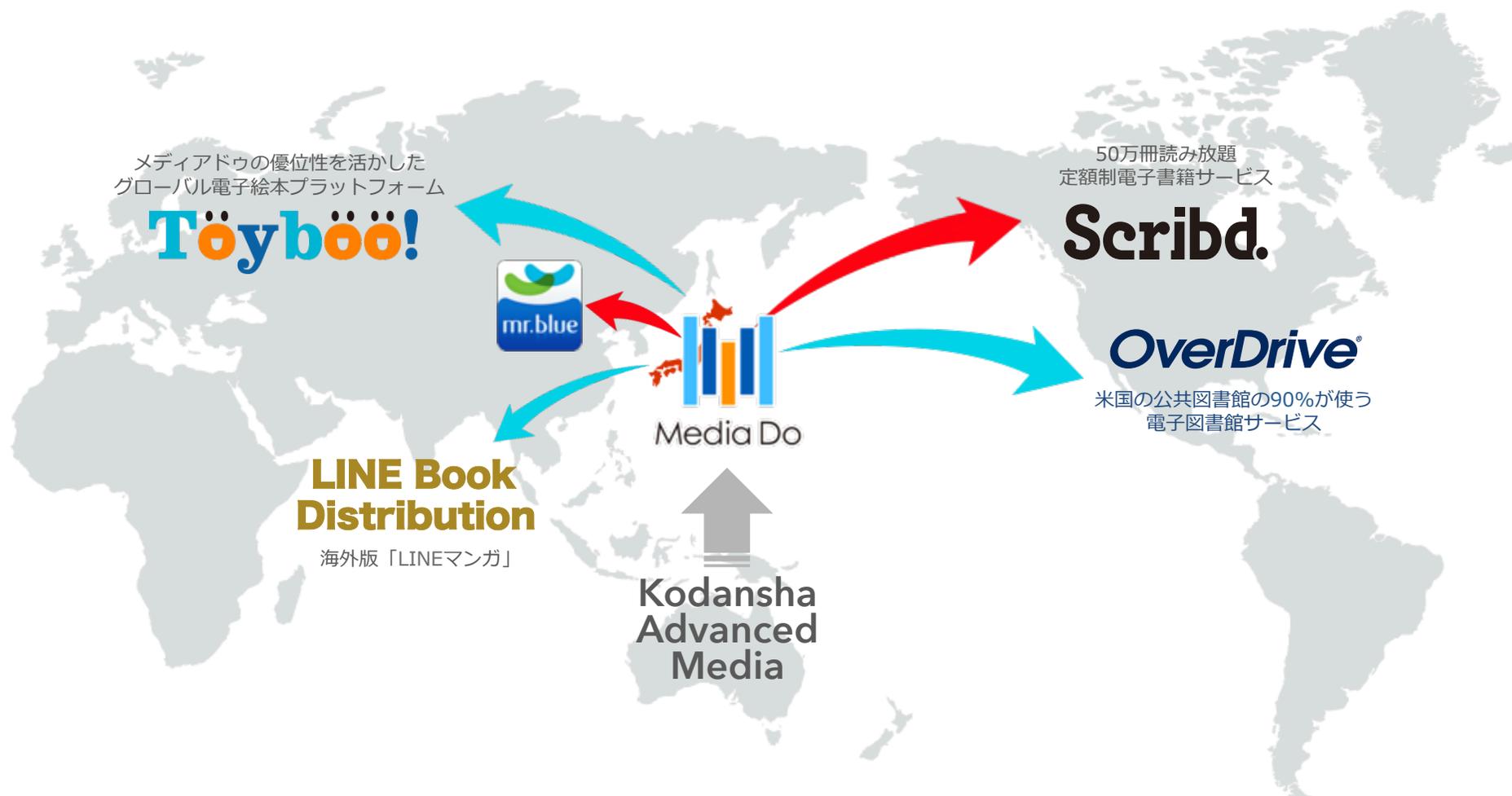
「Gunosy 5,000万人都市構想」



Gunosy Platform

海外流通展開

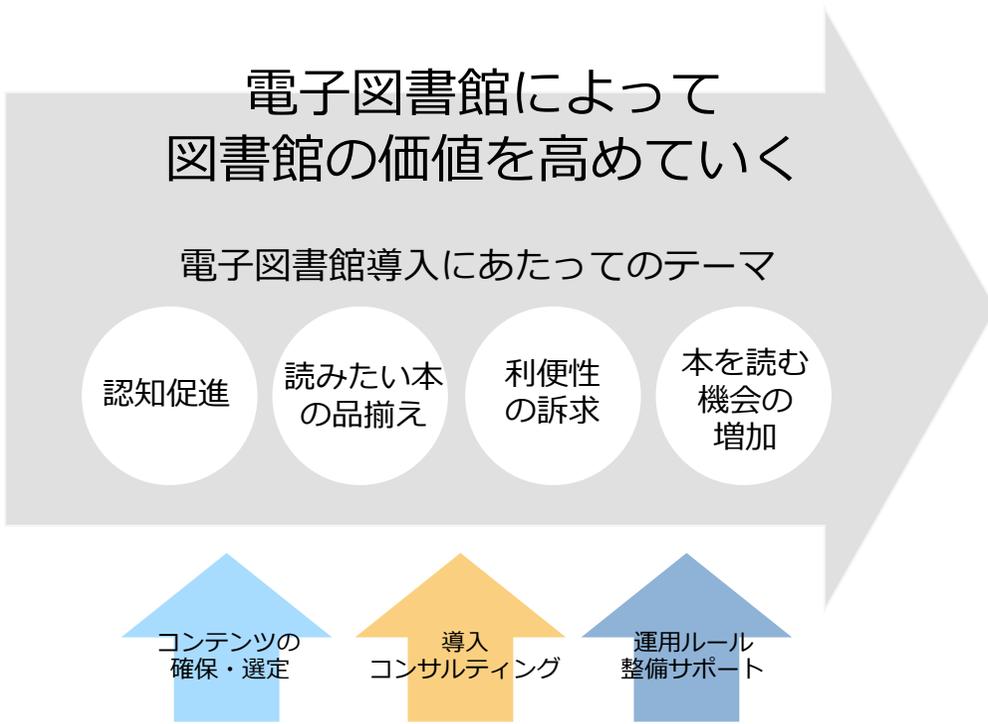
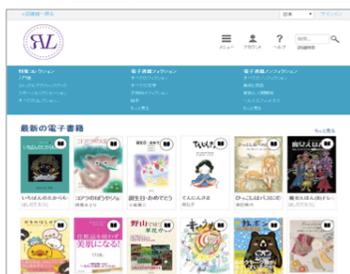
北米での講談社作品の電子配信業務受託、韓国Mr.Blue社、Scribdへの取次開始など、海外流通が徐々に加速。



電子図書館展開

OverDrive電子図書館システム導入の国内公共図書館第一号は茨城県龍ヶ崎市立中央図書館。

2015.7.14 スタート
龍ヶ崎市立中央図書館



✓ 地域住民コミュニティ化



✓ スペースの有効活用



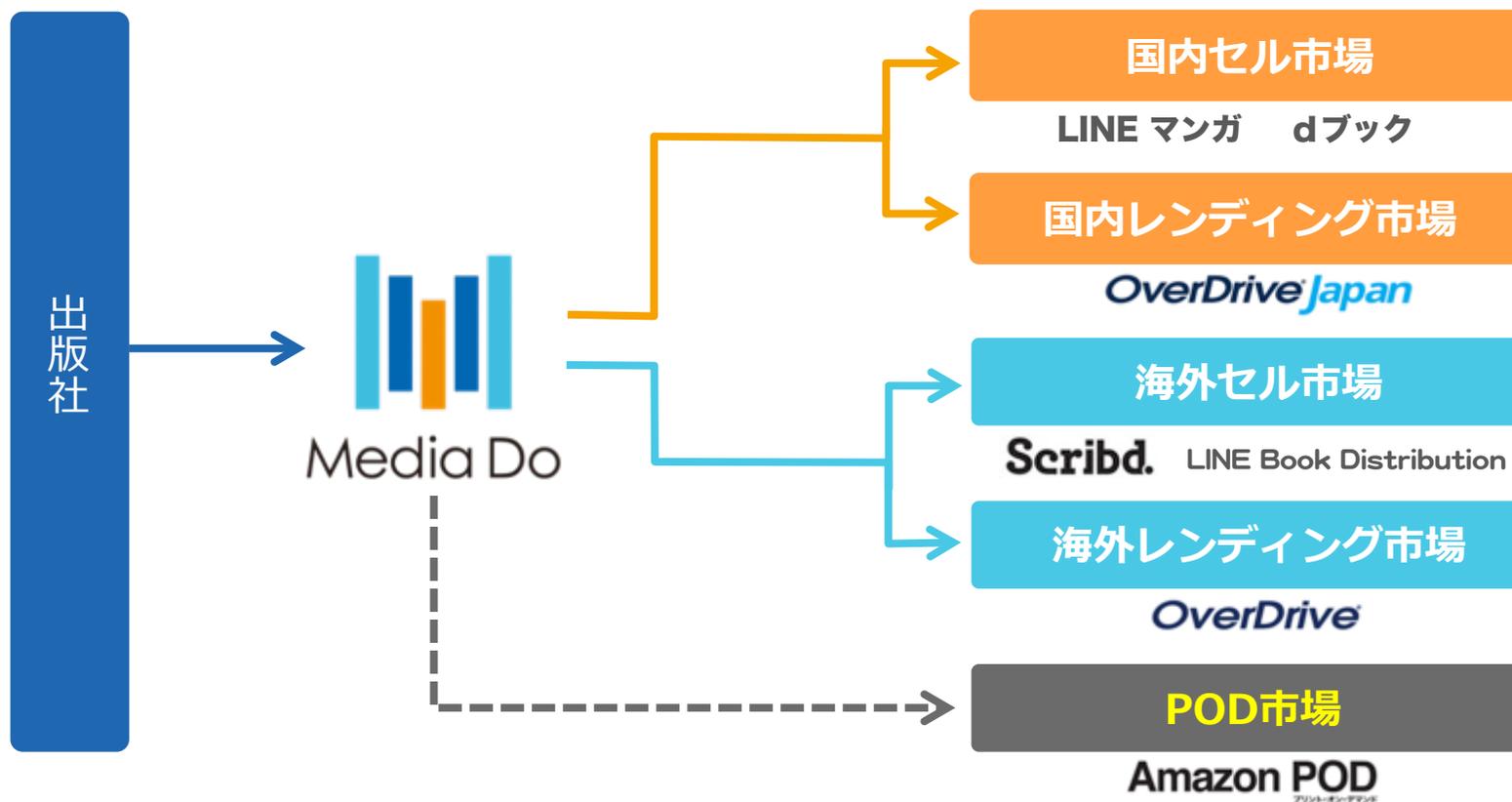
✓ 子どもが集まる場所

Media Do × OverDrive® × 楽R天



ワンソースマルチフロー

メディアドゥのワンソースマルチフローは、電子書籍としての国内・海外の4フローに、PODによる流通形態を加えたプラットフォームに拡充。



会社概要

商号	株式会社メディアドゥ (MEDIA DO Co.,LTD.)
設立	1999年4月
資本金	877,319,750円 (2015年5月末日現在)
役員構成	代表取締役社長 藤田 恭嗣 取締役 溝口 敦 取締役 山本 治 取締役 伊藤 啓 (社外取締役/独立役員) 取締役 伊藤 行雄 (社外取締役/独立役員) 常勤監査役 大和田 和恵 監査役 森藤 利明 (社外監査役/独立役員) 監査役 堀 泰人 監査役 田村 茂 (社外監査役/独立役員)
従業員数	115名 (社員 92名、アルバイト等 23名 / 2015年2月末現在)
本社	東京都渋谷区代々木4丁目30番3号 新宿MIDWESTビル5F (初台)
名古屋テクニカルオフィス	名古屋市中区丸の内3-5-10 名古屋丸の内平和ビル9F
徳島木頭オフィス	徳島県那賀郡那賀町木頭和無田字イワツシ5-23

本社



名古屋
テクニカル
オフィス



徳島木頭
オフィス





Media Do

将来見通しに関する注意事項と会計監査について

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、本資料内には会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。従いまして、本資料に全面的に依拠した投資等の判断を行なうことは控えていただけますようお願いいたします。